

パラスポーツ委員会

パラスポーツ委員会委員長 中村 健

パラスポーツ委員会は、日本リハビリテーション医学会における社会貢献活動の一環として、パラスポーツに関する「医学的サポート活動」「医学的研究活動」「広報・普及活動」を行っています。

具体的な活動として2025年度には、第62回日本リハビリテーション医学会学術集会（京都）において、「パリ2024パラリンピックとこれからのパラスポーツへ」をテーマとしたシンポジウムを企画し開催しました。シンポジストとして、実際にパリ2024パラリンピックに参加したアスリートとサポートスタッフをお招きしました。また、同学術集会では、当委員会の委員がパラアスリートのメディカルチェックデータを解析した研究成果も発表しました。さらに、第9回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会（旭川）では、スポーツ庁からの依頼を受け、スポーツ庁が作成した「障害のある方へのスポーツ指導・関わり方 入門ハンドブック」を利用したセミナーを当委員会が企



第9回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会でのセミナー風景

画して開催しました。2026年度に向けては、日本リハビリテーション医学会ホームページ上のパラスポーツ関連ページのリニューアルと内容の充実もすすめていく予定です。

このように、様々な活動を通して、パラスポーツの発展に貢献できるように活動を続けています。パラスポーツのさらなる発展のために、これからも皆様のご協力をお願いいたします。

男女共同参画委員会

男女共同参画委員会委員長 酒井良忠

男女共同参画委員会では、医学会内におけるダイバーシティ&インクルージョンを推進するために、会員、代議員、役員などの男女比の調査、学術集会におけるシンポジウムの開催と、JJRM誌や医学会ホームページに掲載する原稿の作成、活躍している医師へのインタビュー企画などを中心に活動しています。

シンポジウムは各学術集会会長のご協力のもと開催しており、過去のシンポジウム開催報告レポートは医学会ホームページにも掲載されています。ホームページ左側の「ダイバーシティ&インクルージョン」のバナーからお入りください。福岡で開催される第63回日本リハビリテーション医学会学術集会では「見えない思い込みへの気づき～働きやすい未来を創る第一歩～」としてアンコンシャス・バイアスをテーマにシンポジウムを開催予定です。我々のような指導医の立場にとっても重要なテーマであると考えています。是非ご参加ください。

2024年6月現在の会員男女比は男性83%・女性17%ですが、年齢別に女性比率をみますと30代、40代では28%、20代で39%と若い年代ほど女性比率が高まっています。さらに専門医の女性比率は全体で26%ですが、40代では43%となっており、多くの女性会員が専門医として活躍している現状がわかります。一方で学術集会の座長や指定演者の女性比率はまだ低く（座長9%、演者11%）、積極的な学術活動ができる環境を提供することも重要であると考えております。当委員会では各地方会へ女性の指定演者、座長候補の推薦を依頼し、それをリスト化し学術集会会長へ情報提供しております。性別にかかわらず会員の皆様が働きやすく、また学術活動を積極的にに行えるような環境づくりと啓発を行ってまいりたいと考えております。今後とも会員の皆様のご理解、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。